

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2008年4月15日】

団体名 非営利活動法人日本ペルー共生協会

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するための活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

二言語(スペイン語、日本語)による受験・進学・就職スキルアッププロジェクト

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※現在日本に住んでいるペルー及びラテンアメリカ圏の人は経済的に恵まれず、日本での労働条件が厳しい人が多い。そのような条件の下で家族として来日している子どもたちは日本の義務教育課程に学ぶことになる。ところが小中学校にはスペイン語を理解する先生は皆無に近いために意思の疎通を欠き双方に不都合が生じている。この不都合を補って学業成績の向上を図り、上級学校へ進学させることによって日本の制度ややり方をスペイン語、日本語の二言語で理解できる有能な人材に育成し、日本、ラテンアメリカ双方の国に貢献する人材を育てる。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※
1)学習教室: 町田市民フォーラムに於いて、スペイン語及び日本語の教科書を用意し、日本の教育内容がよく解っているボランティア、あるいはスペイン語・日本語のバイリンガルの指導者が、生徒の状況に合わせて必要とされる言語で学習指導を行う。
2)町田市民フォーラム内の視聴覚教室において、インターネットに接続したパソコンを使用する。指導者は大学で電子工学を教えている3ヶ国語を使用できる南米出身の教授で、生徒の状況に合わせてスペイン語あるいは日本語の二言語で専門的なパソコンの指導を行う。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

日本の学校に通っていても十分に日本語や内容が理解ができないために学習意欲を失っていく外国人の生徒が多い。この教室では個人的に指導し、なぜ勉強が必要か等の対話に心がけ、生徒の状況によってスペイン語あるいは日本語での指導を行った。同じような境遇の人がいることで仲間意識が生まれ、次第に生徒の人数が増えていった。生徒の中に中学3年生が8人もおり、最終的にはこの8人全員が高校入学を果たすことができた。パソコン教室ではスペイン語でパソコン教室を行ったと言う点で人気を博し、スペイン語週刊新聞IPCに記事が載ると、遠く千葉県や愛知県からまでの問い合わせがあり一部は次回まで待つと言う人も出るほどの状況であった。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

各生徒の苦手な部分を丁寧に指導していくこと、使用しやすい言語で内容をまず理解してから実際使用している教科書や受験に取り組んで行くという方法でのてごたえを感じた。パソコン教室は申し込み人数が多く1回の講習での受け入れ人数を増やした。多くの人からスペイン語でのこのような教室の次回の開催の声が寄せられた。終了後も問い合わせが続いている様子を見ると、日本語以外の言語で専門的な知識を『学ぶこと』に参加できる体制を整えることの大切さを痛感した。彼らのためにと考えて用意したプロジェクトではあるが、結局は日本の社会にとっても利益があると感じた。しかし交通費を真如苑から支援して頂いてやっと収支バランスがとれているので今後の課題も残っている。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

○参考資料あり・特になし

